



四 気 折 々

四気＝川越中学校訓「やる気 ほん気 こん気 げん気」

川越町立川越中学校
学校だより 第39号
平成29年3月1日

如月から弥生（※1）へ

如月は、逃げるが如く過去となり、1年間を締めくくる月、弥生を迎えました。

3年生の学校生活は、残すところ5日間となりました。卒業生として巣立つあなたたちと、さらなる伝統を積み重ねるのも同じく5日間となりました。在校生である現1、2年生は、卒業生となる3年生から多くのことを学んできましたが、この5日間も改めて見つめ続け、学ぶべきことをしっかり学んでほしいと願います。

7日（火）の卒業式に向け、卒業生としての誇りを、在校生がしっかり受け継ぐことができるよう準備を進めているところです。

保護者・地域の皆様には、年度最終月となりましたが、今まで同様、本校に対するご理解・ご協力をお願いいたします。

※1 旧暦3月。現在は新暦3月の別名としても用いる。（ウィキペディアフリー百科事典より）

【卒業式歌1、2年生合同練習の様子】



【1年合唱】



【2年合唱】



【合同合唱】



【講評を聴く様子】

Turning Point（※2）

私が私自身のキャリア（※3）を決定することとなった第1のターニングポイントは、今からさかのぼること37年前の大学受験にあったように思います。

私は中学・高校を通じて、数学が好きで得意でもあったことから、大学卒業後には、数学に関わる職業に就きたいという思いで、4つの大学を受験しました。その当時は、現在のスマホやパソコンによるインターネット等の通信が発達しているわけではなく、受験の可否は、受験した大学に直接出向き確認するか、電報で通知を受けるというものでした。第1～3希望の大学からは「サクラ、チル」、第4希望の大学からは「サクラ、サク」の電報が届きました。「サクラ、サク」は「合格」、「サクラ、チル」は「不合格」を示すものでした。幸か不幸か迷うことなく、第4希望の大学への進学を決定することができました。

しかし、第4希望だったことから、正直、これでいいのだろうかという気持ちのまま、初めての授業に臨んでいました。その授業担当の教授の話を聴いて、自分自身のわだかまりを払拭し、希望を持ってこの大学で頑張ろうと思えるようになりました。これが第2のターニングポイントだったと思います。そして、この教授みたいに若者に明るい未来を与えることのできる人になりたいと思い、中学校数学の先生という道を選びました。

当時は「サクラ、チル」に惑わされた若者でしたが、現在では、川越中学校の生徒、保護者、先生方、地域の皆さんに支えられ、「サクラ、サク」毎日に感謝できる大人になりました。これから受験に臨む3年生のみなさんにも「サクラ、サク」日が必ず訪れます。自分自身を信じて、未来に向けて確実に一步一步進んでください。

※2 ターニングポイントとは、転機、変わり目、分岐点の意味を持つ英語。

（ウィキペディアフリー百科辞典より）

※3 ①経歴。経験。②職業。特に専門的な知識や技能を要する職業。

（大辞林 第三版）